

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 5 月 7 日 (2015.5.7)

【公表番号】特表 2014-509688 (P2014-509688A)

【公表日】平成 26 年 4 月 21 日 (2014.4.21)

【年通号数】公開・登録公報 2014-020

【出願番号】特願 2014-502887 (P2014-502887)

【国際特許分類】

C 0 8 L 27/12 (2006.01)

C 0 8 K 5/25 (2006.01)

C 0 8 J 5/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 27/12

C 0 8 K 5/25

C 0 8 J 5/00 C E W

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 3 月 18 日 (2015.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A) ニトリル基含有硬化部位モノマーの共重合単位を含むフルオロエラストマーと；

B) 一般式  $R^1OC(O)NHNHR^2$  のカルバゼート（式中  $R^1$  は 9 - フルオレニルメチル、ベンジル、アリールまたは複素環であり； $R^2$  は、H、アルキル、アリール、複素環、 $CO_2R^3$  または  $CH_2R^4$  であり； $R^3$  はアルキル、アリール、ベンジルまたは複素環であり； $R^4$  はフルオロアルキル基である）と；

を含む硬化性組成物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の組成物から製造される硬化物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

先行技術の組成物と本発明の組成物の体積膨潤度を比較するために、類似の、ただしカルバゼートではなく 0.25 phr の尿素を硬化剤として含む化合物からリングを製造した。225 の水に対するわずか 168 時間の曝露の後、尿素で硬化されたリングは、15.7% の体積膨潤度を示した。

本発明は以下の実施の態様を含むものである。

1. A) ニトリル基含有硬化部位モノマーの共重合単位を含むフルオロエラストマーと；

B) 一般式  $R^1OC(O)NHNHR^2$  のカルバゼート（式中  $R^1$  は 9 - フルオレニルメチル、ベンジル、アリールまたは複素環であり； $R^2$  は、H、アルキル、アリール、複素環、 $CO_2R^3$  または  $CH_2R^4$  であり； $R^3$  はアルキル、アリール、ベンジルまたは複素環であり； $R^4$  はフルオロアルキル基である）と；

環であり； $R^4$ はフルオロアルキル基である）と；  
を含む硬化性組成物。

2． $R^2$ がHまたは $CO_2$ 、 $R^3$ である、前記1．に記載の硬化性組成物。

3．前記カルバゼートが、9 - フルオレニルメチルカルバゼート；ジフェニルメチルカルバゼート；1 - (tert - ブトキシカルボニル) - 2 - フェニルヒドラジン；フェニルカルバゼート；およびベンジルカルバゼートからなる群から選択される、前記1．に記載の硬化性組成物。

4．前記カルバゼートの少なくとも1つの酸素原子が硫黄原子により置換されている、前記1．に記載の硬化性組成物。

5．さらに硬化促進剤を含む、前記1．に記載の硬化性組成物。

6．前記1．に記載の組成物から製造される硬化物品。

7．少なくとも168時間225 の水に曝露した後ASTM D1414にしたがって測定した体積膨潤度が5%未満であり、ASTM D395にしたがって測定した300、70時間、15%圧縮での圧縮永久歪が70%未満である、前記6．に記載の硬化物品。